

We
Love
Music

公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

『創立六十五周年を迎える』

公益社団法人岐阜県交響楽団

理事長 岡本 太右衛門

思っております。

今年は(公社)岐阜県交響楽団が創立してから六十五周年という記念すべき年であります。

岐響の活躍があつてこそ、岐阜の文化が発展するという、強固な信念の下、運営がなされてきました。

先ずは日本で一番のホール、サントリーホールでの演奏を五年後

創立六十五周年を立派に送

樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

岐響の竣工記念となつたのであります。この式典会場で私は理事長として団員の皆さんに申し上げました。この練習場は皆様が気樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

五年ごとの節目の年には、何か記念すべき行事を行ってきましたが、六十五周年の今年は、中部地区で最高のホールであります愛知県芸術劇場で、この地区での最も有名な指揮者、ソリストを迎えて記念コンサートを開催することができました。特に地元の金融機関であります(株)十六銀行様の格別の協力を得て、「じゅうろくカードコンサート」行事に組み入れていた

岐響は幸いにも、県、市、財界の絶大な理解と支援を求めることが出来ました。創立四十五周年の記念行事は、自前の練習

場の竣工記念となつたのであります。この式典会場で私は理事長として団員の皆さんに申し上げました。この練習場は皆様が気樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

岐響は幸いにも、県、市、財界の絶大な理解と支援を求めることが出来ました。創立四十五周年の記念行事は、自前の練習

場の竣工記念となつたのであります。この式典会場で私は理事長として団員の皆さんに申し上げました。この練習場は皆様が気樂に音楽を楽しむ為に建設されたのではない。この建設により皆様の腕が上がり、岐阜県の誇れ一先生の、高邁な理想と卓越した指導力の下、呱呱の声をあげました。地域の文化のバロメーターは地域の交響楽団であり、

岐響は幸いにも、県、市、財界の絶大な理解と支援を求めることが出来ました。創立四十五周年の記念行事は、自前の練習

松尾 葉子先生 インタビュー

本日はよろしくお願ひいたします。松尾先生には今回、13年ぶりに岐響を振っていただくことになりますね。

前回はちょうど神戸のアイーダの公演との掛け持ちで、なかなか練習に来られなかつたのですが、その時の岐響は、大人しいオケだなっていう印象がありましたね。

今回の岐響との演奏で、全体としてどのような事を大切にしようとお考えでしょう?

今回はベルリオーズ、サン=サンスと、フランス音楽であり、どちらも何回もやつたことある思い入れのある曲です。やはりフランス音楽ですから、音色を大事にしようと思ひます。

各曲につきまして、お話を伺いしたいです。

ベルリオーズは初めて指揮したの

がNHK交響楽団なんですよ。フランス留学から帰つてすぐ、「若い芽のコンサート」で指揮しました。

思い入れもある曲ですし、その後も何回も指揮していますから、私の中での「ローマの謝肉祭」という曲のイメージははつきりありますね。この曲はリズム感がどれだけ出るか、ということが大切になつてくると思います。

ショーマンは、ピアニストによるかな。でもやはり、ショーマンっていう人は歌曲をたくさん書いている人だから、「歌う」ということを、大切にしています。

サン=サンスは初めて指揮したのはもう40年くらい前、卒業試験の曲でもあつたし、東京でのデビューコンサートでもこの曲を指揮しました。節目の時に指揮している曲なんですよ。愛知芸術文化センターでも指揮したことがあります。

やはりこの曲は「パリ」そのものと

サーンスは、パリのマドレーヌ寺院のオルガニストでもあつたのですが、私はいつもパリへ行くとマドレーヌ寺院へ行きます。この間もパリへ行った時には寄りました。私にとつてはそういう、パリのイメージが強く強います。

先生はフランスに留学し、ピエール・デルヴォーさんに師事されています。

昔からフランス音楽が、というよりもフランス文化が好きで、留学先もパリに決めていました。その当時日本からパリへ留学する人はほとんどいませんでしたけどね。私は行きたくつて、フランス音楽つて現地ではどのように演奏しているんだろうと、その興味が凄くありました。現地では友達もたくさん出来て、そこでいろんなものを吸收しました。音樂も勿論ですが、食事やマナーなど広い意味でのフランス文化といふものを吸收して帰つて来たんですけど、それは今、大切な財産ですね。私にとつては第二の故郷でもあります。

ナダルですよ!もちろんもちろ

先生のツイッターを少し拝見させていただきましたが、音樂の話題と共に、結構な頻度でテニスプレイ

そもそもどうしてフランスに興味を持たれたのですか?

ミシェル・ポルナレフっていうフランスのポップス歌手がいるんですね。ど、その人がきっかけでした。まだ芸大の指揮科に入る前のことでした。先生はいつも、音樂と向き合われている時に、どのような事が大切だとお考えですか?

そもそもどうしてフランスに興味

2004年に、文化庁の海外特別

派遣でパリへ行っている時、たまたまテレビを付けていたらテニスの試合をやっていました。試合を見ててすごくいいなあって思う選手がいて、誰だろうこの人、って見てたらナダルっていう人で。当時まだ18歳ですよ！今みたいに全然有名じゃなくて。あと、ナダルっていうんだ、と思って帰つきました。

そしたらその後、2005年になるとナダルは凄く伸びてきました。もちろん優勝もしました。あの時パリのテレビで初めて見たナダルが、もう今や世界の1位、2位じゃないですか。それがもの凄く嬉しかったんですよ。

もうこの人、つて見てたらナダルつていう人で。当時まだ18歳ですよ！今みたいに全然有名じやなくて。あ、ナダルつていうんだ、と思つて帰つてきました。

そしたらその後、2005年になるとナダルは凄く伸びてきました。もちろん優勝もしました。あの時、パリのテレビで初めて見たナダルが、もう今や世界の1位、2位じやないですか。それがもの凄く嬉しかったんですよ。

いつもはどのようにして応援されているのですか？

いつも彼が頑張っている姿を見て
いるのが凄く嬉しいんです。けがを
したりりすることは凄く悲しいし。

プレイヤーとは全然違うんです。
尊敬してる人はどなたですか、つ
てよく聞かれることありますか、音
楽家は「人もいません。(笑) ナダ
ルです! ナ达尔をよく見ているの
で、男子シングルスの選手なら苗字
と名前ほとんど言えますよ。でも音
楽家の名字と名前は全然言えない
と思います!



普通のファンだったらそこまで思わないかもしないですけど、ナダルの18歳の時から見てるから、思って続けてきたっていう自負もあるし、そういうのがずっと続いています。だからあんなにツイッターにも投稿しちゃうしね。

私のナダル好きは知ってる人はみんな知ってるから、ナダルが優勝すると「おめでとうございます!」なんてメールが来るくらい。私が優勝したわけでもないのに(笑)

先生にどうては、テニスが好き、というよりも、尊敬する人物、ナダルという人が、テニスをやっていた、という感じなんですね。

そう！ナダルという人がたまたまテニスプレイヤーだった、ということ。もちろんテニスには興味あつたんですけどね。

ナダルはあと何年かで引退すると思うんですよ。そのあとどうしようかなと(笑)

私の目標がなくなつてしまふ(笑)

本日は興味深いお話、ありがとうございました。

インタビュー H. 番 匠人

岐阜県交響楽団第90回定期演奏会に寄せて 小見山 純一

今回の定期演奏会でソリストを務めさせていただきます小見山です。どうぞよろしくお願いいたします。

二人の姉の影響で4歳からピアノを始めました。自然と音楽に触れる環境の中、気付いたらピアノが一番身近な存在となっていました。以後30年以上ピアノと共に歩んできました。

高校では音楽部(合唱部)に所属し、大学ではオペラにも触れ、歌い手や伴奏者として積極的に取り組んできました。このような音楽体験を通して、音楽の楽しさを多くの人に伝えたい。感動を共有したいという思いから、岐阜県の高校の音楽教員になりました。高校教員としての8年間は、音楽の授業だけではなく、部活動(初任校は吹奏楽部、二校目はコーラス部)を通じて、高校生と共に音楽を追究する日々を過ごしました。その中で、音楽教員の育成に携わりたいという思いが芽生え、現在は、岐阜聖徳学園大学にて教員を目指す学生へ音楽の樂しさや学び方を伝えています。

私は小学生の頃、クララ・ショーマンの伝記が好きで繰り返し読んでいました。19世紀に活躍した女性ピアニストであるクララは、1840年

音楽教師である父親の反対を押し切りロベルトと結婚します。その翌年、ロベルトによってこの協奏曲の第1楽章にあたる部分が『ピアノと管弦楽のための幻想曲』として作曲されました。この曲にはクララへの深い愛が感じられます。第一主題の美しさは、非常に心を揺さぶるもので、全体を通して幸福に満ちた樂章となっています。4年後に残りの樂章が作られ、ピアノ協奏曲として完成し、クララが初演をしました。第2樂章は間奏曲となりますが、運びが展開されます。短いフレーズを受け渡すオーケストラとのやり取りは、まるで二人の会話のようです。そしてそのまま休みなく入る第3樂章。まさに、歓喜という言葉が当てはまるかのような華やかな樂章です。とてもリズミカルで、途中出てくるヘミオラもこ

の樂章の特徴と言えます。77小節目からは特に好きな場所ですが、ここでは、悩みから解放されたかのように、押さえきれない喜びを感じます。幻想的な要素とピアニステイックな要素とを合わせ持ったこの作品は、通して聴くとショーマンとクララとの物語を見ているような感覚になります。

この曲を演奏するにあたり大切にしていること

どの作品に取り組む際も、最も大切にしていることは、いかに作曲家が思い描いた理想の音樂に近付くことができるかということです。樂譜に書かれた一つ一つの音や記号から、なぜシユーマンはその音や記号を用いたの

が、できるかと考え、彼のメッセージを感じ取ろうとしています。私の20年來の恩師は時々「練習していく困った時は天国の作曲家に電話をする」と言います。それは単なる冗談ではなく、作曲家の声が聞こえるようになるまでは、演奏の面白さを理解する上での大きな鍵となります。私は、乐譜を読み込むことの大切さを教えてくださっているのだと感じています。

また、今回は音色にこだわりをもつて取り組んできました。心に染み入る愛情溢れたメロディをいかに美しい音

色で歌うかということに時間をかけ

ました。場面の変化が頻繁に起こるため、それぞれのパッセージにふさわしい音色を探り、多彩な音作りを目指してきました。さらに、第3樂章においては、リズムの面白さを生かすことの大切にしています。オーケストラとの合わせを重ねていく内に、互いのリズムを楽しむ余裕が少しずつ生まれてきました。樂曲のあちこちに隠れている、ピアノとオーケストラの会話のようなやり取りを感じ取っていただけたら幸いです。

私にとっての岐響

岐響の皆さんと初めて出会ったのは、2013年マーラーの交響曲第2番「復活」で合唱隊の練習ピアニストをやらせていただいた時でした。本番は観客として岐響の演奏を聴き、深い感銘を受けたことを覚えていました。その後、2016年のニューアイデーコンサートにてモーツアルトの協奏曲を共演し、今回は二度目の共演となります。私にとって岐響は、地域に根付き、岐阜県の音樂を常に引っ張ってきたとともに大きな存在です。団員の中には、他の演奏会でご一緒した方や、高校に勤めていた頃の生徒、お世話になつた先生、さらには高校時代の同級生など、色々な所で繋がりのある方がみえ、ずっと昔から共に音

(※編集者注:今回、小見山先生には、予め岐阜県交響協楽団が用意した設問内容に対して、執筆していただきました。)

樂をしてきたような錯覚に陥るほど、とても居心地のよい場所です。いつも温かく迎えてくださるので、穏やかな気持ちで音楽に没頭することができ

会を設けていただき、試行錯誤しながら一緒に創り上げてきました。岐響の皆さんには、指揮者の一言により一瞬で音楽が変わるだけでなく、私の音からもどんな音楽がしたいのかを感じ取つてくださり、瞬時に対応してくださるので、合わせをしているとそのやり取りがいつも楽しく感じられます。一人一人が時に必死な形相で、時に笑顔で音楽の世界に入り込んで演奏されているため、私はピアノを弾きながら皆さんの表情を見るのがとても好きです。

松尾先生との出会い、練習で感じたこと



豆の美味しい食べ方に至るまで、様々な話を聞かせていただいたことは、私にとって大切な思い出となりました。

高めてから臨むことがあります。また、旅行も楽しみの一つです。初めての土地でその土地の名物をいただいたり、名所旧跡に触れたりすることで、大きな刺激を受けます。モーツアルトは「旅をしない音楽家は不幸だ」という言葉を残したと言われていますが、旅を通した経験は、音楽にも生きかされ、表現の幅が広がると感じます。疲れた時に温泉へ行き、のんびりしながら心身共にリフレッシュするのにはまさに至福の時です。

また、ライフケークとして4年に一度ソロリサイタルを行っております。近年はショパンをテーマとしてバラード・スケルツオ全曲に取り組んでまいりましたが、次は古典派の作品をメインにしたいと考えています。特にベートーヴェンのソナタを一から勉強し直し、次のリサイタルで披露できたらと計画しております。今後も作曲家の声を聞き取るべく、真摯な気持ちで作品と向き合い、取り組んでいきたいと思っております。

音楽を演奏することは、様々な音楽観に触れることでもあります。一つ一つの本番がどれも大切で、今からとても楽しみです。

しでも多くのことを学びたいという
思いでくらいついていきました。する
と、それを察知してくださつてか、
もつと自由に表現して良いと声を掛け
てくださいました。“自由な表現”
とはどんなものかについて改めて考え
させられ、自分なりの解釈を演奏に
生かしていくきっかけをいただきました。
した。松尾先生の指揮で演奏すると
いう貴重な機会をいただけたことに
心から感謝しています。練習中は厳
格な先生も、練習が終わるととても
気さくに話しかけてくださり、全く
違う印象を受けました。夕食でワイ
ンをご一緒しながら、音楽の話から納

音楽の時間以外での過ごし方

今後の活動予定

今回の演奏会後、しばらくは伴奏での活動が続きます。まず、3月2日㈯は、ナック・マリノバの演奏

日本合唱コンクールでご一緒した大
会があります。その翌日には今年の全
国合唱コンクールの方との演奏

岐響団員が語る！

楽器の魅力・楽器との出会い

楽器への思い コントラバス編

コントラバスという楽器の特徴

平尾 真一郎

オーケストラの弦楽器のなかで最低音を担当し、響きの土台を支える役割があります。また、力強い低音は音楽の推進力を生み出す効果もあります。

名称は「コントラバス」の他に様々な呼び方があり、単に「バス」あるいは「ベース」と呼ばれます。「ダブル・ベース」「ウッド・ベース」と言われることもあります。吹奏楽では弦の付いたバスという意味で「弦バス」と呼ばれます。

樂器の大きさは全長約180cmと、とにかく大きいので目立ちます。大きい分、素早い運動が苦手です。

指で弦をはじく「pizzicato」(ピッツィカート)は、弦楽器の同じ奏法のなかでコントラバスが最も豊かな響きを奏でることができ、メロディーを際立たせる効果があります。

一般的には4弦のコントラバスが多く、最低音としてはミの音までなのですが、5弦のコントラバスもあり、ミより低い音まで出ます。

たいていアマチュアオーケストラで5脚光をあびる機会も少ないのでコント

弦コントラバスの音を聞く機会は少ないのですが、岐響の演奏会ではほぼ毎回

といつてよいほど、コントラバスパート10名程のうち、約半数の5弦コントラバスが登場します。

余談ですが1850年ごろにフランスの樂器職人が作成した「オクトバス」は、コントラバスに似た樂器ですが、その全長は3・45mあり、コントラバス(約2m)のおよそ2倍です(ー)。ぜひ一度、「octobasse」と検索してみてください。

コントラバスあるある

コントラバスはその大きさゆえに、持ち運びの面で、奏者にしかわからない大きな変化があります。

樂器の重量は約10kg。一回り小さい弦

樂器であるチェロの約3・4kgに対し、倍以上である。街中で樂器を担いで歩き回るには体力と根性と視線に負けない強い心が必要。

樂器を抱えたまま電車やバスに乗ることかなり注目をあびる。混雑している場合は注目ではなく顰蹙(ひんしゆ)

く)を買ってしまう。

こうした移動の苦労のわりには普段、

ラバスですが、豊かな低音の響きはオーケストラには欠かせないものです。音を出す瞬間、大きな樂器全体が振動して床に伝わり、奏者の体にもその振動が伝わってきます。この力強い振動こそ、コントラバスの大きな魅力だといえます。

コントラバスとの出会い

伊藤 嶽

私は中学三年生の時、ギタークラブに所属していました。当時は、ギター(とりわけ「禁じられた遊び」という曲)を弾けるということは、男子にとつてはとてもステイタスの高いことだったということは、同世代の方ならおわかりでしょう。

そんなある日、顧問の先生から、「コントラバスって樂器を買つたけど、誰か弾いてみたい人はいませんか。」といふ言葉が…。

「はい。弾いてみたいです。」

無鉄砲にも、真っ先に手を挙げたのが私でした。これがコントラバスという樂器との出会いでした。

しかし、当時指導できる先生はもちらん誰もいなく、教則本を買い、全くの独学で苦労して練習をしたこと覚えてい

ます。今から四十五年ほど前のことです。

さて先日、コントラバスを見てほしい

ことについて、それこそ四十五年ぶりに

母校の中学校を訪れました。そこには、

コントラバスが三台ありました。一台は壊れたり弦がなかつたりで、ほとんど使いたい物にはならない状態でした。その中で、一台だけちゃんと音の出る樂器がありました。いつの樂器かなと中をのぞいてみると、なんと、製造年が私の中学時代と合致したのです。つまり、その樂器こそが、私が初めて弾いたコントラバスだったのです。とても感動しました。

その樂器は今、日の目を見て、孫に近い年齢の子が弾いてくれています。ぜひ、大事に弾いていってほしいと願っています。

こんな奇跡の再会もあるのですね。今までこうして岐阜県交響樂團でお世話を

なり、続けてコントラバスを弾いていることに、あらためて喜びを感じている私です。

ちなみに…。私がオーケストラでコントラバスを弾くきっかけは、大学一年生の時です。いわゆる控室のような場所に、コントラバスを弾かせていただけないかなど伺つたことが始まりです。

「すみません。入団したいのですが、」

「どの樂器を希望しているんだ?」

「コントラバスです。」

「お、めずらしいな。即採用。サマー

コンサートに出してやる。」

この時に応対してくださった三つ上の先輩こそが、田中陽治さんであることを付け加えておきます。

地味だけど…

坂井 久仁江

コントラバスとの出会いは大学1年、

友人の付き添いで管弦楽団の見学に行つたのがきっかけです。しかし定員はいっぱい、コントラバスしか空きがありませんでした。そこで熊さんのような大きな体の先輩にちょっと弾いてみてと言わわれ、見まねで弦をガーッとやつたら「うまい！」一回で音が出る人なんていないよ！」なんておだてられ、オケや楽器のことはよく分からぬけどパートの先輩方が面白そうだったのでその場の雰囲気で入団を決めました。

私は小学校から高校まで合唱団に所属していました。韓国やオーストラリアへ海外公演に行つたり、市民の第九に参加したりと、一生歌を続けていたらと思いつながら大学へ進学しましたが、合唱部はありませんでした。ピアノの経験はあります、オケの知識も興味も全くない私がこの出会いから生活が一変したのです。クラシックの複雑な構造や和音、リズムが私の音楽魂を搖さぶりました。ハモることが大好きだったので、あなたの奏でるメロディーに合わせることができるのは私しかいない！と絶好のタイミングで低音を響かせると、気持ち良い！水ぶくれで痛い指も立ち続けで辛い足も苦にならないほど楽しくて仕方ありませんでした。コントラバスの魅力は

オケ全体の音楽の深みと幅を作り出す

ことが出来るところです。オケをリードしたり、メロディックなベースラインが出てくるとワクワクします。

エサに釣られて?
コントラバスとの出会い

田中 陽治

「オーボエは喉しめるあかんワ！」

(声楽担当某教官)「お前、音楽科なら

ベースやれ。これから絶対役に立つ

えー」(後に作曲法を師事する故

敏先生)二人のお言葉が私のその後の

音楽人生を決めました。専門に学ぶつも

りだった声楽を捨て、未知のコントラバ

スの世界へ。45年前のことです。

加えて兼田先生の「ベースやるなら今

度のサマコン、全曲出したるでえー」が極

めつけ。ベースの先輩が一人だけという

お家事情もあって、私のデビューは初め

て弓を手にして2か月半後の岐阜市民

会館。曲はアイネクライン、ベートーヴェンのピアノ協奏曲3番、そしてモーツアルト40番でした。

当然、「開放弦による演奏でお送

りします」状態で、楽譜は開放弦で弾ける音に全て○印。モーツアルトの2曲はト長調とト短調で弦4本全てが開放で使えるものの、ベートーヴェンはハ短調で2本しか使えません。そして指板にはフレットのような鉛筆のシルシだらけ。そんなレベルでどうやって弾いたんだろう、特に40番…。

そしてその冬。ベースの先輩がシベリウス2番の本番を最後に本当はやりた

かつたヴァイオリンに移り一人ぼっちに。

フレームス1番がメインの2年時の定

演など、私と、クラリネット専門で東京

芸大から着任1年目の朝田健先生、そ

して後に岐響で長く隣で弾かせてもら

うことになるエキストラ青木貞広さん

の、たった3人だけでの演奏です。ちなみに今の岐響仲間・伊藤巖さんは私が4

年時の1年生で、そのときには5人の強

力部隊に成長！

そんなふうに始まつた私のコントラバ

ス人生ですが、エサで釣られた感もある

にせよ、やはり兼田先生には感謝しかあ

りません。和声を学ぶとその基本はベー

スラインを作ること。つまり、コントラバ

ス演奏イコール様々な作曲家による「和

声法の模範解答例」を常に学び続けるこ

となるわけです。基本はあつても「こう

来るか！」と思うような意外性も作曲

家や曲によつてまつたく違い、それだけ

でも楽しさが倍増します。

「アカン、よーじ。メロディとベースが

平行5度やないか。やり直し！」でも

「△番シンフォニーのどこどこで○○(作

曲家)がどんなふうにベース書いとるか

確かめてみい」。いつもベースパートと関

わらせた厳しくも温かい指導が受けら

れたのもベースとの出会いのおかげ。

オーボエへの未練もほんのちよいあります、45年間のこれまでのベース人生、

作曲や指揮にも生かすことができて、ほ

りません。

岐阜県交響楽団 六十五年の歩み

岐阜県交響楽団六十五周年にあたり、今までの皆様の厚いご支援に御礼させていただきます。
ここに岐響六十五周年の歴史を振り返りたいと思います。

- 昭和 28 年 9 月 岐大教授・宮崎直一氏により、「岐阜交響楽団」として発足
- 昭和 32 年 10 月 第一回定期演奏会を開催
- 昭和 42 年 1 月 練習場を岐大校舎より商工会議所に移転、新組織にて再開
- 昭和 50 年 4 月 社団法人として改組、「岐阜県交響楽団」に改称
- 昭和 50 年 6 月 秋山和慶を客演として招く(その後名誉指揮者となる)
- 昭和 51 年 7 月 交響詩「長良川」(團伊玖磨作曲)初演
- 昭和 58 年 8 月 創立三十周年記念・オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全三幕公演
- 昭和 59 年 11 月 文部大臣より「地域文化功労賞」を受賞
- 昭和 60 年 6 月 国際文化交流・姉妹都市中国杭州市にて演奏会
- 昭和 62 年 8 月 常設練習会場として、岐阜ボウリングセンターを借用
- 平成 2 年 7 月 飛驒古川国際音楽祭事業 音楽の森への参加
- 平成 5 年 6 月 創立四十周年記念事業(委嘱作品: 藤掛廣幸作曲 交響曲「岐阜」)
- 平成 10 年 12 月 岐阜県交響楽団「練習場」の竣工・完成
- 平成 15 年 11 月 創立五十周年記念演奏会「東京公演」(サントリーホール)
委嘱作品: 池辺晋一郎作曲「夢の跡へ~オーケストラのために~」世界初演
- 12 月 創立五十周年記念演奏会「岐阜公演」(長良川国際会議場)
- 平成 21 年 5 月 創立五十五周年記念「ウィーン公演」(小松一彦指揮・ムジークフェライン)
「岐阜公演」(長良川国際会議場)
- 5 月 平成 23 年 3 月 ファミリーコンサート・東日本大震災復興チャリティーコンサート
(井村誠貴指揮・長良川国際会議場)
- 平成 23 年 4 月 「公益社団法人岐阜県交響楽団」に移行認定
- 平成 23 年 8 月 岐阜青年会議所創立六十周年記念事業『岐阜の絆・三千人の第9』協力出演
- 平成 25 年 4~5 月 創立六十周年感謝公演(御嵩町公演、白川村公演)
- 平成 25 年 11 月 創立六十周年記念演奏会
(マーラー 交響曲第 2 番「復活」 井村誠貴指揮・長良川国際会議場)



創立六十周年記念演奏会 マーラー 交響曲第 2 番「復活」